

— まちのお医者さん 便り —

々(山形市旅電町の文翔館で) 同大の前身・山形高等学校一紹介。同大地域教育文化学(suma/)

くろき脳神経クリニック

(酒田市)

黒木亮 院長



イラスト・安藤静

片頭痛の発作前、ギザギザした光が見えるなど、視野の異常が現れることがあります。「閃輝暗点」といい、ズキンズキンと脈打つような強い頭痛の前兆です。どのような治療が必要なのか、くろき脳神経クリニック(酒田市)の黒木亮院長に教えてもらいました。

片頭痛の前兆「閃輝暗点」とは

脳の血管収縮が原因 まずは脳神経外科へ

閃輝暗点は、片頭痛患者の約2割に起こると言われています。片頭痛は、拡張した血管が頭蓋の痛覚神経を刺激することで激しい痛みを生じます。閃輝暗点は、片頭痛の発作の初めに脳の血管が収縮することによって引き起こされる症状です。

閃輝暗点だけを治す方法はなく、治療は片頭痛の予防的治療が主体となります。予防には、脳の血管が収縮する段階を抑え、片頭痛の発作を起こしにくくする効果のある「ロメリジン塩酸塩」などの予防薬が用いら

れます。

加えて、拡張した血管を収縮させる薬によって、痛みをなくす治療も行われます。閃輝暗点への効果はまだ不明ですが、最近では、血管の拡張や炎症反応を起こす物質をブロックして、発作自体を減らす注射薬もあり、片頭痛の治療は大きく変わるかもしれません。

強い片頭痛が伴わない閃輝暗点については、まれなケースですが、視覚中枢のある後頭葉に脳腫瘍などができて、視覚野のてんかん発作として発症している場合もあります。

これまでに診療した例では、閃輝暗点は生じるものの、強い頭痛がない女子中学生にMRI検査を実施したところ、後頭葉に良性腫瘍が見つかったことがありました。腫瘍を切除した後、閃輝暗点の発作は起こらなかつたそうです。

こうしたケースもあるので、閃輝暗点がある場合、まずはCTとMRIがある脳神経外科などの受診をおすすめします。脳に何も異常がないかを確かめた上で、頭痛の治療に詳しい医師に相談することが大切です。